

令和6年度 函館市医療・介護連携多職種研修会「急変時対応研修会」

アンケート集計結果

n=86 (回収率 88.7 %)

当日参加人数 97名

1. 所属機関をお聞かせください。

・函館市	65	(75.6%)
・北斗市	11	(12.8%)
・七飯町	10	(11.6%)
計	86	(100.0%)

2. 所属機関をお聞かせください。

・医療機関	17	(19.8%)
・介護機関	61	(70.9%)
・その他	8	(9.3%)
計	86	(100.0%)

3. 現在、従事されている職種をお聞かせください。

・医師	1	(1.2%)
・歯科医師	0	(0.0%)
・薬剤師	0	(0.0%)
・保健師	1	(1.2%)
・看護師	17	(19.8%)
・ケアマネジャー	23	(26.7%)
・相談員	6	(7.0%)
・介護職員	24	(27.9%)
・歯科衛生士	1	(1.2%)
・栄養士	1	(1.2%)
・リハビリスタッフ	4	(4.7%)
・柔道整復師	0	(0.0%)
・マッサージ師・鍼灸師	0	(0.0%)
・福祉用具関連	0	(0.0%)
・事務員	1	(1.2%)
・その他(施設長, 救急救命士, 社会福祉士)	7	(8.1%)
計	86	(100.0%)

4. 今回のテーマはいかがでしたか？

・よかった	85	(98.8%)
・どちらともいえない	1	(1.2%)
・よくなかった	0	(0.0%)
・無回答	0	(0.0%)
計	86	(100.0%)

【ご意見等】

【医療機関】

<医師>

- ・ 実際の問題に即した話で大変勉強になりました。

<看護師>

- ・ 様々な立場からの「急変時の対応」がわかった。どの立場からも1チームと捉えて関わる、協力する、寄り添うことが大切だと思った。
- ・ 訪問診療医、ケアマネ、施設側それぞれの大変さを抱えているのだと思った。
- ・ 医師、CM、介護の視点からの内容を聞いて勉強になりました。もっと事例をたくさん聞きたかったです。
- ・ 様々なケースがあり、勉強になりました。

<相談員>

- ・ 横倉DrつながりでのCM、施設スタッフの看取り事例について実際対応したことなどわかりやすく、在宅や施設の現状の理解が深まった。急変時のACPIについて、救急搬送先の病院でされることもあるが、関係者不在で病院スタッフで行うこともある。家族以外で本人と関わりのある担当者も話し合いの際、必要不可欠であると改めて実感した。
- ・ 在宅生活を支えてくださる事業所さん、自宅での医療を支える先生の意見を聞くことができ、大変貴重な機会になりました。病院でも、何度も家族、本人と話し合う場を設けたいと考えます。

<リハビリスタッフ>

- ・ ACPの重要性や寄り添いの考え方の大切さがとてもよく理解できて学びとなりました。感動的で温かい研修をありがとうございました。

【介護事業所】

<保健師>

- ・ 施設やCMの熱量によってできることが違ってくるので、みんながみんな今回の事例のような支援ができるのかな？と思ってしまいました。個人的にはよい内容で勉強になりました。

<看護師>

- ・ 在宅・施設での訪問看護として救急搬送もありましたが、1人でケアマネに報告、救急に電話など1人での対応が大変で患者さんの処置もあったため、施設スタッフに協力をお願いできたら良かったと思ったときがありました。これからACPも大切に救急にも伝えていきたいです。
- ・ Dr、ケアマネジャー、介護施設経営責任者、それぞれの立場での経験や考え方の違いなど、生の声が聞けてとても学びになりました。病院は受け入れる側ですが、介護の現場ではいつも不安がたくさんです。双方の連携が本当に大切だと思いました。
- ・ 上手くいった事例、そうでない事例など様々なエピソードを聞くことができ良かった。モルヒネの事例はびっくりしたと同時に緩和ケアは進んでいるんだと思いました。
- ・ その方に関わる全ての機関での話し合いの大切さを改めて感じました。誰がどのように連絡をとるのか、その流れの確認、共有の認識についても今後しっかり行っていきたいと思います。
- ・ 他施設での事例を通しての急変時対応を知ることができて参考になりました。

<ケアマネジャー>

- ・ 支援者の想いや体制、知識などが整えば在宅生活(利用者の意向に沿った生活)の可能性が広がると強く感じた発表でした。ありがとうございました。これからも利用者さんの歴史の一部に関わられて良かったなと思える支援をしていきたいと感じました。
- ・ 困難なことが多いケースばかりですが、熱意をもって利用者さんに寄り添っていく姿をみることができました。急変時や看取りは訪看が必須だと思っていましたが、DrとCM、ヘルパーと協力し合って看取ったケースを知り、参考になりました。
- ・ 吉田さんと波並さんの事例紹介とてもよかったです。とても利用者の思いに寄り添うために努力されているということがわかりました。なかなかできないことだと思います。ありがとうございました。
- ・ 急変時前後に至るまで多くを学ぶことができました。また、お三方から貴重な事例を紹介いただき、より深い学びとなりました。今後、より一層利用者に寄り添った支援を行っていききたいと思いました。
- ・ 貴重な体験を話して下さりありがとうございました。吉田さんがケアマネでムツさんは幸せだったと思いました。介護者が気持ちをひとつにして関わっていた様子が目に浮かびました。
- ・ 自身も日頃から利用者本人、家族との意見の相違等で迷うことがある。意志統一を図らなければならないと思うが焦らずに関わっていききたいと思う。
- ・ 医師がチームに深く関わっており、自宅での看取りを行うにあたって本人も周りの専門職にとっても心強かったように感じました。

- ・ケアマネの立場からの急変時対応を学ぶことができました。多職種連携の大切さを再確認することができました。
- ・どの事例もご本人に寄り添う姿勢に感動しました。研修を通して自分の支援の振り返りができました。
- ・様々な現場から急変時の対応について意見を聞いて勉強になりました。
- ・とても感動しました。私ももっと頑張りたいと思いました。
- ・疾患、事例だけ。経過から終了までの対応例のある研修会の開催があとうれしく思います。
- ・居宅CMの支援方法、視点等詳しく聞けることがよかった。
- ・本人の意思の尊重、意向の確認、準備しておくことの大切さを改めて感じました。

<相談員>

- ・様々な職種の3名から事例を交えて話を聞くことができ学びになりました。ありがとうございました。

<介護職員>

- ・事例を多く取り入れて、よりわかりやすく内容をまとめてくれていたので大変良かった。自分の事業所でも考えられること、対応方法等について改めてマニュアルやまとめたものに情報共有すべきものを盛り込む等具体的に想像することができました。
- ・各立場からの急変時対応への心得。生活の中からのACPの捉え方を勉強することができよかったです。モヤモヤでも話し合いすることでその人たちの思いを知ること、本人、家族を支えるため心づもりが大事だと思いました。
- ・最初のは聞こえにくくわかりづらかったが、2人目の説明からは勉強になった。ムツさんは幸せだったと思う。いつもと違うサインに気づく大切さを学んだ。普段から観察する目を養いたいと思った。
- ・ACPを頭でっかちと考えないで、日頃の気持ちを大切にしていきたい。そのため、関わりを多く持ちたいと思う。そのことは急変の対応へもつながることを意識し、不安を減らすためにも考えて続けたいと思う。
- ・今後業務時、急変対応があった際、落ち着いて対応できるように取り組んでいきたいと思います。これからの介護人生に役立てたいです。
- ・病気や介護が必要になったときに備えて将来の医療やケアについて話し合うことはとても大切なことだと思いました。
- ・多様性の時代になり、死に方、死生観も多様化していると感じています。興味深い事例もあり、勉強になりました。
- ・急変時対応で医師、ケアマネ等から見た視点で実際に対応した事例を伺うことができ良い機会になりました。
- ・ムツさんのお話がとても考えさせられました。ヘルパーさんやチームの取り組みが素晴らしいと思いました。
- ・急変時に備えておくことで、慌てずに対応できる。必ずしもACP通りいくとは限らないが寄り添うことが大切。
- ・特養に勤めているので、急変時に対応することがあるので色々なケースの対応がわかってよかったです。
- ・送り手として迷い、どのような手順が必要かとても勉強になりました。
- ・シンポジストの方やパワーポイント等見やすく良かったです。
- ・自分の知らない急変時対応の方法について、知ることができてすごく勉強になりました。
- ・改めてACPの聞き取りの重要性について考えさせられました。
- ・それぞれの立場からのお話が聞いて良かったです。

<栄養士>

- ・何の業界も必ずといってリスクがあると思います。やはり情報共有が一番で少しでもリスクを軽減できるようにマニュアルが全てではないが、急変時のドタバタが少なくなるのかなと思いました。

<社会福祉士>

- ・日頃から本人の思いを聞き取り、関係者間で共有する重要性を感じ、自宅で…。という思いを叶えられた事例も伺えてよかった。

<施設長、管理者>

- ・専門職によって見えるもの、感じていることに対する理解を深めていきたい。ご本人の希望を叶え、幸せな人生の最後の支援に繋がりたい。医療の力が介護の支えになる。本物の連携を作っていきたい。
- ・小規模な施設はいいなと思った。大規模だとなかなかうまくいかないに時がある。
- ・事例を通してそれぞれの思い、多職種連携の重要性など勉強になりました。看取りは不安なことも多く、皆で協力して支援していくこと、医療との連携も不可欠であると思いました。

<歯科衛生士>

- ・医療と介護の連携の重要性。在宅と訪問診療、施設、小規模と訪問診療の具体的な連携について知ることができて大変良かったです。

5. 今後、どのような内容の研修会を希望されますか？

【具体的な内容等】

【医療機関】

<看護師>

- ・ 事例検討や他職種でのグループワーク。他の医療機関ではどんな対応をしているのか詳しく話し合い学習したい。

<相談員>

- ・ グループワーク(時間を多めにとってほしい)今まで多職種ごとであったが、あえて同職種(病院の相談員同士、施設のスタッフ同士、ケアマネ同士、介護職員同士、訪問看護同士など)でグループを組んでみて、2つの課題に向かって話をしてみてもどうかと思います。(職種ごとのカラーが出るかもと思います)
- ・ 退院支援の際、施設、在宅側より「退院無理!!」など、門前払いになることがある。病院の役割の中に速やかな退院を目指していくこともあるため、その辺の内容をお願いしたい。(もちろん医療側も退院するための視点でケアをする必要あり)
- ・ ディスカッションでも話がありましたが、アルコール依存の方の対応など、どう向き合っているか聞きたいです。

【介護事業所】

<看護師>

- ・ ACPの対応、変化に対する対応。急変時の対応、他職種との連携の方法。本人、家族の思いを知るタイミング。
- ・ ACPで困った事例、沢山の経験談を聞きたいです。
- ・ 色々なケースが聞ける機会をつくってほしいです。
- ・ ACP。

<ケアマネジャー>

- ・ オープンカンファレンスは訪看さん、訪問診療の先生がメインで話を下さることが多いと感じていたので、居宅CMの支援や立ち位置などに重点をおいた事例など知る研修会を希望します。
- ・ 救急対応時の事例、もっと共有できればと思いました。ぜひ、何らかの形でお願いしたいです。
- ・ 独居で身寄りのない方の支援。高齢で精神疾患のある方の支援。
- ・ 若年性認知症。
- ・ 身寄りがない方の支援。

<相談員>

- ・ 定期的にこのような急変時対応の研修会を開いていただきたいです。
- ・ 高齢者が起こしやすい病気、それに対する対応。事故防止。(施設編)
- ・ ACP、施設での看取りなど事例を聞きたい。緩和ケアについて。

<介護職員>

- ・ 認知症の方とのコミュニケーションや重度の認知症の方のレクや入浴など。
- ・ テーマは同じでも良いと思う。有難いお話が聞けた。
- ・ 最新の福祉用具。看取りの介護など。

<栄養士>

- ・ リスクマネジメントの大切さ。自身の職場を守るため、(賠償金等が発生すると経営にも影響が出るのかと思います)リスクマネージャーの資格を持っています。特に命に関わる事業の症例、自身の責任などもしもの想定が大切だと思います。

<施設長>

- ・ 行き場のない、たらい回しにならない連携。

<歯科衛生士>

- ・ この様な具体的に連携できたケースについて知りたいです。

6. 講師への質問がございましたら、お書き下さい。

【医療機関】

<看護師>

- ・それぞれの現場で、ACPをどのように取り組んでいるのかを知りたいのですが…。(将来、それを他機関に伝えるためにも)
- ・病院、在宅、施設、訪看など様々な連携をいかにベストな状態にするために必要なことは？
- ・最後の失敗の事例がすごく勉強になりました！！

<相談員>

- ・拒否されても関係を構築しようとする対応(姿勢)が素晴らしかったです。

【介護事業所】

<看護師>

- ・大変有意義な時間となりました。感謝いたします。ありがとうございました。

<ケアマネジャー>

- ・わからないことは本当に不安につながると思います。常に学んでいかなければいけないなと思いました。
- ・主治医が大きな病院の外来であれば、在宅での情報のやり取りが難しい場合があります。
- ・各担当者の方が誠実に向き合っていたことがよくわかる内容でした。ありがとうございます。
- ・今後もこのような研修の企画よろしくお願いいたします。
- ・貴重なお話をありがとうございました。
- ・病識を知ることが重要と思った。らしさの対応に愛を感じました。
- ・運営ありがとうございました。

<介護職員>

- ・最初の方の声がすごく聞き取りずらかったです。吉田さんのお話はすごく良かった。情景が浮かんできました。すてきな事業所だなと思いました。
- ・急変対応に不安を持っていた。どの職種の方も同じで正しく学び経験をしていくことが重要だと感じた。
- ・講師の方の声が聞き取りにくく、内容が入りにくいと感じました。
- ・すごくタメになり自分自身の学びになる研修会でした。ありがとうございました。

<栄養士>

- ・なかなか管理栄養士の参加の内容に直結しませんが、何か急変時のお手伝いができるれば、また知識や経験の症例でもわかっていれば役に立てることがあればと思い参加します。

<施設長>

- ・小規模多機能で、急な泊りが増えて人員は大丈夫だったのかなと思ったり、介護度2.4~2.6, 1.6で施設運営は上手くいっているのか？らしさに興味をもった。

<歯科衛生士>

- ・横倉先生、吉田CM、らしさの波並さん、とても良い話をありがとうございました。研修の企画。準備をされたスタッフの皆さんお疲れ様でした。ありがとうございました。